



抗加齢医療の治療効果

－ 体内年齢、酸化損傷度、抗酸化能の検討 －

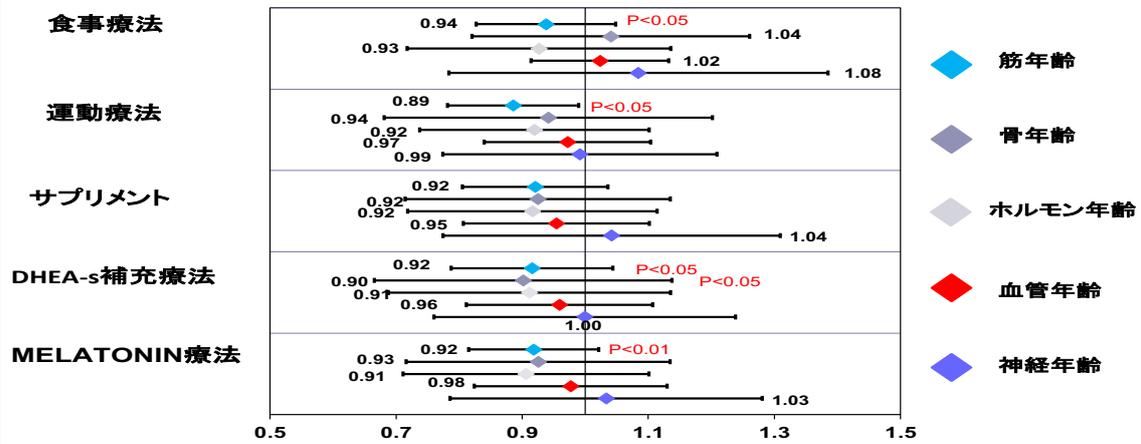
医療法人アエバ会 アエバ外科病院 草野孝文 樋口拓

【目的】 当院でアンチエイジングドックの受診者に対して抗加齢医療を実践している。今回、治療前後の機能年齢・酸化損傷度・抗酸化能などを比較検討し治療効果について報告する。【方法】 対象は2008年12月末までの受診者数延べ175名である。今回再検査しえた男性18名、女性25名の計43例(リピート率32.6%) ①食事:カロリー制限、栄養バランス ②運動:スクワット20回×2回/日、有酸素運動(早歩き)週3~4回 ③サプリメント:酸化ストレス度が高くDHEA-s低値群にDHEA-s 25mg 舌下食後1錠/日、DHEA-s/コルチゾール比低値群、睡眠障害例にメラトニン2mg 眠前1錠処方。アンケートに基づき治療実践の有無で2群に分類した。各群の改善率の統計学的検討を行った。

【結果】 ① 食事療法実施群では筋年齢の老化を予防し(46.2±6.1, by-6.2%, P=0.004), IGF-Iが増加した(170±57.2ng/ml, by26.9%, .034)。STASが改善された(.038)。②運動療法実施群で筋年齢に効果があり(46.5±7.4, by-11.4%, =001)、IGF-Iが増加した(168.1±52.5ng/ml, by28.2%.007)。女性の血管年齢が改善(61.9±8.0, by-10.8%, .015)、DHEA-s(1142±870, by145%, .027)、DHEA-s/コルチゾール比(12.6±11.6, by215%, .023)の改善が見られた。③サプリメントは、DHEA内服群でIGF-Iの増加(151.1±58.4 ng/ml, by30.8%.017)、尿中8-OHdGの減少(4.57±2.59, 049)、非内服群で体重増加・BMIの増加がみられた(.026, .039)。男性のHDL-Cの増加(66.6mg/dl, by14.8%, .019)が見られた。女性の内服群では、心の症状が改善(43.9±8.9by-8.0%, .016)、DHEA-s(1190ng/ml±889, by154%, .035)、IGF-I(146.6 ng/ml±68.8, by35.4%, .034)、DHEA-s/コルチゾール比(13.6±11.7, by227%, .026)の改善が見られた。メラトニン内服群でIGF-Iの増加(152.4±47.1 ng/ml, 32.5%, .017)、拡張期血圧の低下がみられ(69.8±8.5, by-9.5%, .008)、非内服群で加速度脈波の老化(男性74.7±0.6, by18.0%, .006)、男性の内服群で筋年齢が若返り(47.3±7.3, by7.5%, .014)、非内服群で体脂肪率の増加(26.2±3.2, by12.0%, .037)が見られた。



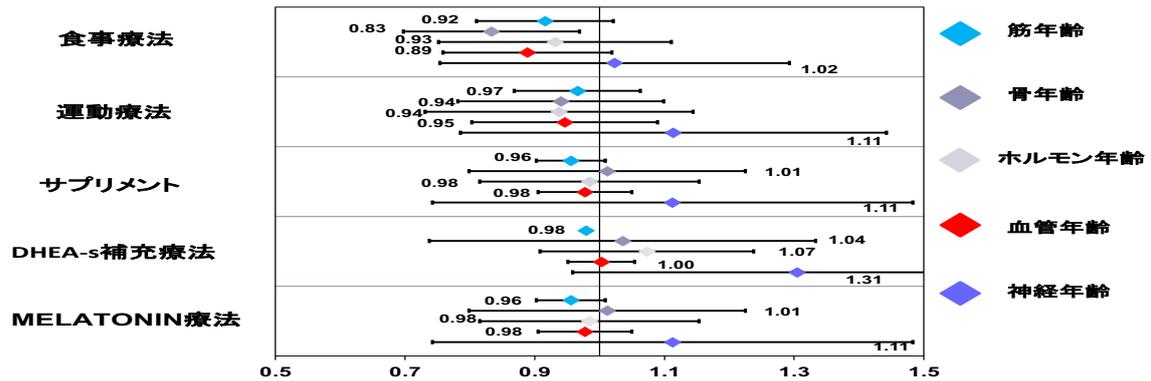
体内年齢改善率(指導実施群)



実施群では体内年齢の改善の傾向が見られた。

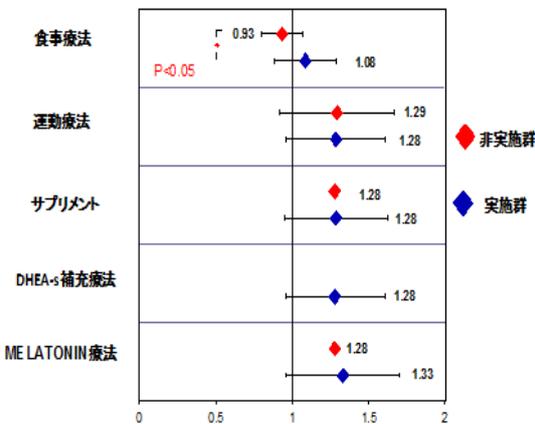
T.KUSANO

体内年齢改善率(指導非実施群)



非実施群では、実施群に比べ改善率にバラツキが見られた。

IGF- I 改善率



DHEA-s改善率

